

# 1996.4.8新聞報道【熊惑×桜とシダの会】

毎日新聞報道



「ラグビータウン」を自負する熊谷市の熊谷スポーツ文化公園で7日、「第3回くまがやラグビー祭り」が開かれた。エキシビジョンマッチで元全日本代表チームOBの「桜とシダの会」と地元40歳以上愛好家でつくる「熊惑クラブ」が対戦、観客を沸かせた。写真。

## 元全日本チームに挑戦 地元愛好家が大健闘

くまがやラグビー祭り

「桜とシダの会」は1968年、ニュージーランド遠征で強豪・オールブラックスジュニアを激戦の末、23-19で破る大金星を挙げた全日本代表チームメンバーで構成。平均年齢は約52歳。今年創立28年で、約10年前から1年に1回、同窓会を兼ね全国各地を回り、高校生などに指導しながら、同年齢の地元チームと対戦している。

一方、「熊惑クラブ」は76年創部で、20周年記念試合となる。平均年齢は約47歳。荒川ラグビー場で週に1回、汗を流す。会長の吉田嘉高さん(58)は「お手やわらかに頼みたいですよ」と言いながらも闘志をみせた。

試合は中盤まで「熊惑クラブ」がリードしたが、自力に勝る「桜とシダの会」

が36-29で逆転勝ち。先制トライをあげた熊惑クラブの田島健さん(40)は「基礎がしっかりしているから1年に1度しか集まらなくても組織的攻撃ができるんじゃないだろうね」と舌を巻いていた。

埼玉新聞報道

第三回熊谷ラグビー祭りは7日、熊谷ラグビー場で小学生から中学、高校、社会人までの幅広い層の選手を集めて各部門ごとに交流戦が行われた。

この大会は、「ラグビータウン熊谷」をスローガンに掲げる熊谷市の意向を受け、熊谷ラグビー祭り実行委員会が「昨年からはじめて、今回は「少しでも多くの市民に、ラグビーに目を向けてもらいたい」(舟橋良一・同市イメージアップ推進室長)という考えから、試合以外にも熱気球体験授業、ミニSL運行など親子連れで楽しめるアトラクションを新たに企画。会場には一万人余りの一般市民が足を運んだ。

また、熊谷市と姉妹都市提携を結んでいるNZ・インバークーギル市の国際交流団が三日に來日、この日も十七人がラグビー場を訪れ、先住民マオリ族の伝統芸能「ハカ」を披露した。

大会は、一般市民参加のゲームに続き、小学生たちによる紅白戦、熊谷市内の中学。校による対抗戦、高校の部は熊谷工・東農大二(群馬)熊谷工・大東大(東京)などが行われた。

社会人の部では創部二十周年を

## 元ジャパンも参戦 幅広い層が交流

迎えた熊惑クラブ40歳以上対象が、元日本代表選手をそろえた



### 熊谷ラグビー祭

「桜とシダの会」を招いて対戦。20-38で敗れたが、メンバー最年長の田口中さん(56)は「元ジャパン相手に楽しめた。このような大会を、熊谷だけでなく県内各地でやってほしい」と、満足そうに語っていた。

熊惑クラブー桜とシダの会 40歳以上の選手たちが、真剣な表情でだ円球を追い続けた